

# 傳書譜

				和書門	
二	一	六	二	四	二
一	一	六	七	七	九
二	二	六	九	九	類
冊	架	函	號	號	

庫文閣内				和書	
九	二	二	二	二	二
九	四	七	七	九	九
函	二	二	二	九	類
一	二	二	二	九	
架	冊	號	號	號	

内閣文庫	
番號	和 24729
冊數	212(130)
函號	199 216



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

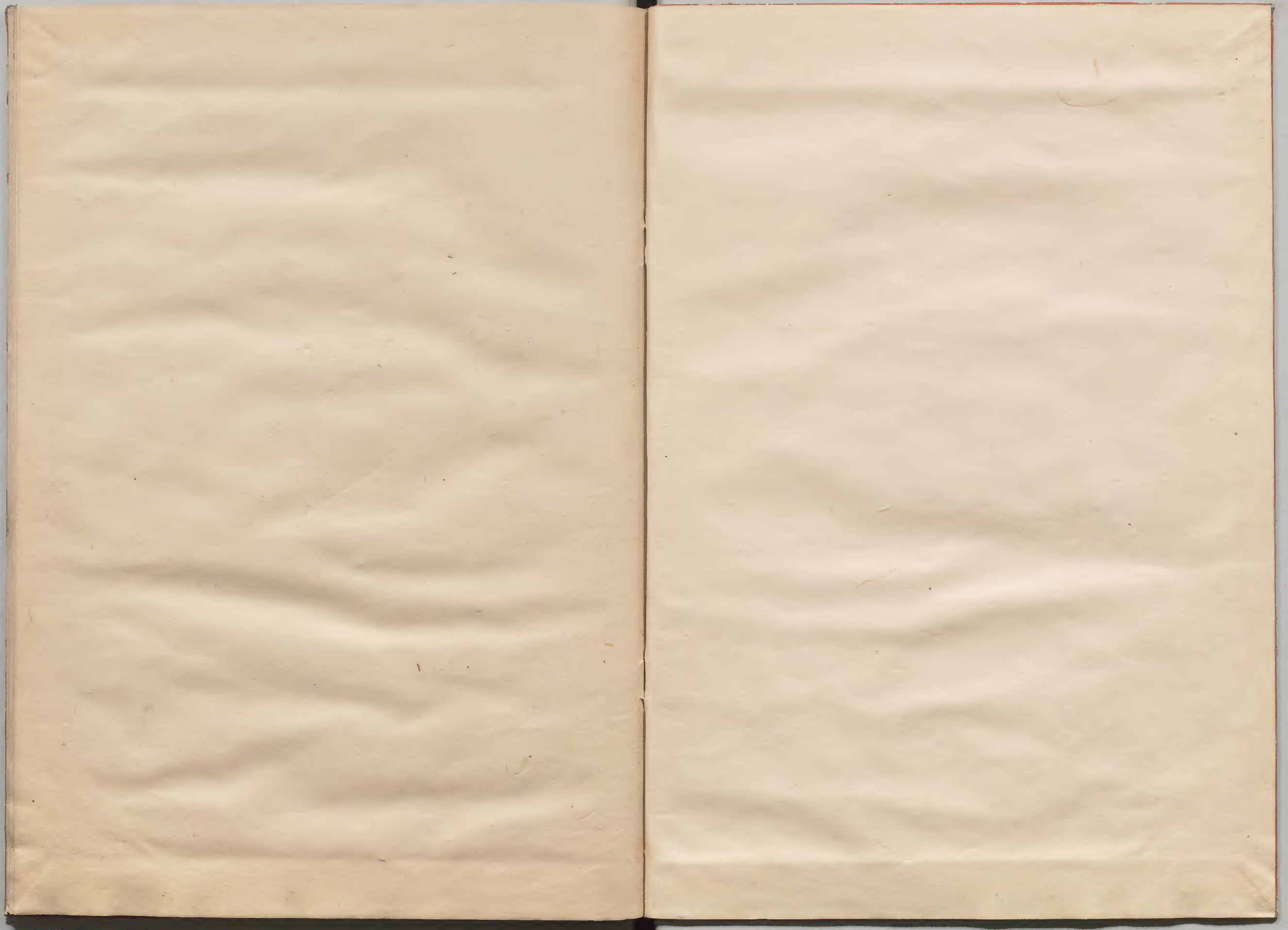
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak











淺草文庫

是ハ橋川位者乃神皇菊園の何

そはても老君らん者の



為らば給ひ一時當社



京よそめでなく業ら母給ひらぬ彼

所教も志として當社へ系備有

手と伝出されては間具由社へ



世一  
剛  
お小き津設をあらむやとな  
小車のおしもつて都路の直  
後る時代は唯光サレ  
ふき光君よてたりまらても此  
君臣者の神の恵をを給ひし  
死したるの宿さぎつてや神  
寶珠掛木綿も白身の名羽田

つく秋乃山とていさ都乃  
月の影陽つある山崎や開の宿  
もつつ里まぬ切たあ  
あた川まの藤原をて見  
せは霧まらふ其方よりあ  
ほのみしろむる村紅葉露も時雨  
も此君乃道のちぐめとらめぬ



ら凡も志づきくもる浪の音さへ  
やよ佳吉の浦わさやく慈母  
きりく乗あさりい浪乃速い  
よ佳吉の神とらきて忍れやす  
神の誓ひもいさなき浦わの奴の  
瑞籬の久き代より法たれて  
目の本乃神の誓ひ行あてく

和光回唐の結縁のもしも也相成  
道ハ利物をもていさき返  
と見民を憐れみ清心を行はあめ  
らるべきく  
でたらぬ祝詞を新ききりぞるよ  
らあバ祝詞を新ききりぬ  
で祝詞をすらんと神皇正統記を

惟光



持つて祝詞を尸をり謹んで再ぬ  
致自神をすまめの神樂ハ人  
乃復女五人の神樂をのこ  
の鈴乃音ていさくの鼓乃巻しよ  
柳葉乃奇神も細受し終ひ  
我も天下泰平諸人快樂少く壽  
同儀よ奇りしめ給へや柳しつる

とさう乃諸神成神皆今後足有  
福や 禰 奇 かの清神よも物  
うらうらていさくとどりあれや  
らぎ物細受もらうやと感激  
きもよめいどきわよしくさるこび  
乃西盃神をよたびきれしわ  
か 清 借よ 何 原 大 臣 の 清 例



とて心よりたまはれるもハ随  
身ろの時よ清救よ立てと  
可入す されんても久しく  
ありぬ傳者のきしり姫松  
ふよ色ぬらん 子代もろ代  
よの舞乃秋子代万代のまじり秋  
ふよめぐる 盆の在明よある

にきつぬのほろぐ 明る伝者乃  
南よりまきの清路鳴実も深なる  
池めらぬ 明るる月まら  
ぞよ 舟の静ある浦傳ひ  
ふむを ころのぶろやほ下  
くせまきさきさきて 行舟よ須磨  
の浦わもつしりは 伝の名もたし



てゝも花は入はよもするあるは  
はらちう白雪の津守の浦は  
なまきり松原の深きとら  
ある其の中よ花やもみぢのうら  
みせる表の夜こきりすむ枝も  
ききりまはるるはるる人  
よあるも  
是く都

うれおき光君乃すこしよ  
福終よとはちぬ人も有きや  
ぎらよあまづら光きこの  
清まらでうとや実いさうら  
もらうらうら月日うあま  
あひようあ今日まよえと白露の  
まぶらきうあも離きぬをくせと



しほのこしあはれも中しよはる  
のみるめもしづしわらとて  
浦の踏らむ空よあはれも  
うしやしらばねのりよは  
とめしきもだよあはれも  
舟とさしよる上は光り  
しありしうはほりだちも

はらぬ舟影のうれあはれ奥  
かきぶもぢぢりたまやん  
うとばようよまはる中  
其音たがりあはれん  
今ハ優者のきしよは  
くさあしんわしれ  
わらもれはる



ともありてか  
頼めなく其一言もたのづ  
く深き契りのえりあむ  
やぐて海瀬も有あつたり  
あぐりまきもたもほしめ  
見えまき備は神の誓ひあ  
恨えしめしと幕らち

人知む石のこをむす  
あもとりぐよ奥をうたは  
もいづらあむらあは  
もいづらあむらあは  
かどあで新のゆも  
あむらあむらあは  
あむらあむらあは  
あむらあむらあは



ふれあひのついでに  
思ひをよぶるすあ  
ともろつのもゆる年の  
縁子生先まー天が下照し  
あふんわつ石の月をせんきこ  
の清福も作吉乃神のめぐ見  
あり



